登山学校レポート（第５回講習）沢

【田中敦典・福岡勤労者山岳会（アゼリア山の会)】

日程：2022 年 9 月 11 日（日）
場所：熊本県緑川水系下津留沢

沢登りは沢登り特有の危険性があり、様々な状況判断が求められる。判断する場面がとても多く、そのぶん学びの多い大変有意義な講習になった。

事前の準備段階で、自分の地図の作成が全く不十分で、ここがまず反省点である。尾根筋を歩くのと違って、常に谷筋なので周りの地形を読みにくい。沢が分かれているところで自分の位置を確認するしかないと教えていただいた。その時に必要なのが高度なので、地図に標高をきちんと入れておくこと。

また、滝を巻いて登るときに、左右どちら側から巻くのかの判断についても、地図の等高線の詰まり具合を読んで、傾斜の強い弱いや、その後沢がどちらの方向に曲がっているのか、適切に判断する必要があり、この時もきちんとした事前の地図作成が重要である。滝を巻いて登る時は、斜面が滑りやすく、枯れ木や枯れ枝をつかまないという事や、必要に応じて木や根でランニングビレーを取りながらロープにつながりながら安全を確保することを教えていただいた。

滝の登攀では、ロープを使って登るのか、長めのスリングを使って登るのか、巻くのか、その時の水量などの現場の状況、参加者の力量、時間、その他諸々を含めて総合的に判断される。支点は、近くの大きな木や岩を利用して構築されていた。セカンド以下をビレーする場合は、肩がらみの確保の方が、セカンドが身動き取れなくなった場合、直ぐに解除することが容易にできる。今回、セルフビレーを取って肩がらみの確保の練習をさせてもらい有難かった。滝を登る時に出口にチョックストンが挟まっていたが、それをホールドとして使う時は、下からもち上げるのではなく上から掴む事が大切だと教えていただいた。流されて来た岩が、たまたま引っかかっていて外れる可能性があるからだ。

特に沢については１回の講習で全てを学びきれるものではない。今回、たくさんの学びを与えてくださった講師の方々と受講生の仲間に感謝し、これからも沢登りの経験を積んで、安心・安全な登山ができる総合力を身につけたいと思う。